

要配慮者利用施設の浸水対策

避難訓練の支援ツールについて

関東地方整備局
河川部水災害対策センター

国交省、都道府県

(水防法第14条等)

河川が氾濫した場合等に浸水が想定される区域を洪水浸水想定区域等として指定



市町村

(水防法第15条)

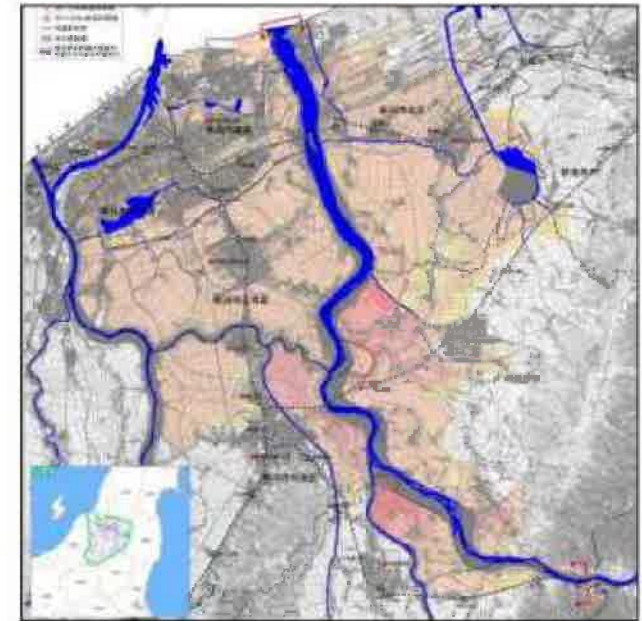
地域防災計画に、利用者の円滑かつ迅速な避難の確保を図る必要がある浸水想定区域内の要配慮者利用施設※を記載



要配慮者利用施設の管理者等

(水防法第15条の3)

避難確保計画の作成、訓練の実施(義務)
自衛水防組織の設置(努力義務)



洪水浸水想定区域

※要配慮者利用施設：社会福祉施設、学校、医療施設その他の主として防災上の配慮を要する者が利用する施設

【水防法第15条1項四号ロ】

浸水想定区域内にある要配慮者利用施設で、利用者の洪水時等の円滑かつ迅速な避難の確保を図る必要があると認められるもの

→市町村地域防災計画への施設名称、所在地の記載

市町村が水防法による要配慮者利用施設を指定

【水防法第15条の3 1、5及び7項】

要配慮者利用施設の所有者又は管理者は、以下の義務等を負う

- ・ 避難確保計画の作成 (義務)
- ・ 訓練の実施 (義務)
- ・ 自衛水防組織の設置 (努力義務)

施設に避難確保計画の作成等を義務づけ

【水防法第15条の3 2、5及び8項】

要配慮者利用施設の所有者又は管理者は、以下の義務を負う

- ・ 避難確保計画の市町村への報告 (義務)
- ・ 訓練結果の市町村への報告 (義務)
- ・ 自衛水防組織を設置した場合、構成員等の市町村への報告 (義務)

施設に避難確保計画及び訓練実施結果等の報告を義務づけ

【水防法第15条の3 3、4及び6項】

市町村長は、以下の行為ができる

- ・ 計画が未作成の場合、施設の所有者又は管理者に対する必要な指示
- ・ 指示に従わなかったときは、その旨の公表
- ・ 計画の作成や訓練の結果の報告を受けたときは、必要な助言又は勧告

市町村は施設に対して計画作成の指示・未作成施設の公表等ができる

令和5年3月31日

- 令和5年3月31日時点で、対象施設※は121,556施設、うち計画作成済みは104,381施設(約86%)。
 - 前回調査の令和4年9月末から6ヶ月間で5,378施設増え、作成率は85%から1ポイント増加。
- ※市町村の地域防災計画に定めた要配慮者利用施設

令和5年3月末時点

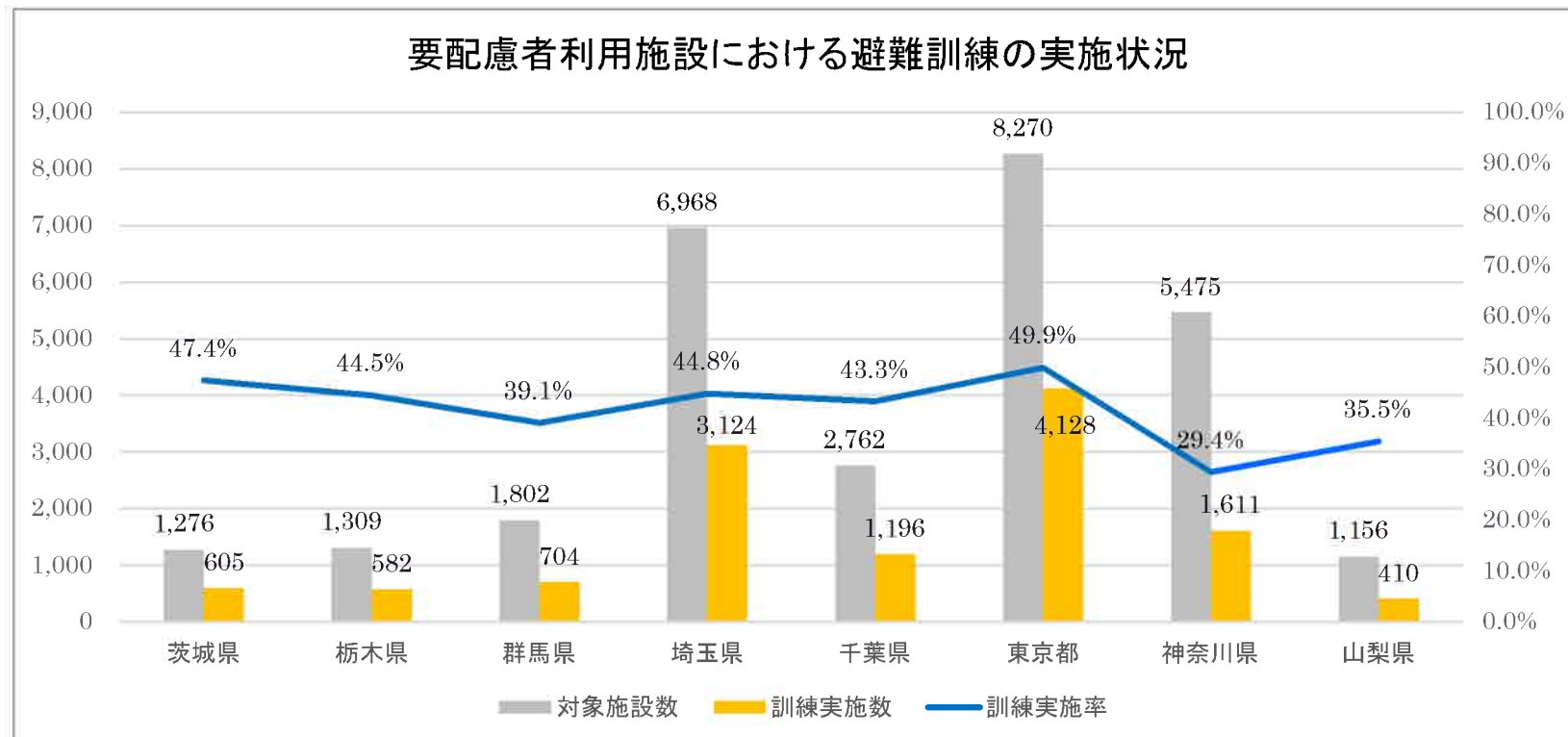
区分	対象施設	計画作成済み	作成率
要配慮者利用施設	121,556	104,381	86%
うち社会福祉施設	99,008	85,335	86%



令和4年度実施状況

○全国の対象施設※は121,556施設、うち訓練実施済みは48,035施設(約40%)。
 ○関東の対象施設※は29,018施設、うち訓練実施済みは12,360施設(約42%)。
 ※市町村の地域防災計画に定められた要配慮者利用施設

区分	対象施設	訓練実施済み	実施率
全国	121,556	48,035	39.5%
関東	29,018	12,360	42.6%





関東地方整備局にてツール作成等に係る業務を発注。支援ツールを用いた避難訓練を実施し、参加した5つの施設や自治体の意見を支援ツールに反映



訓練実施に対する施設所有者(管理者)の印象

本来業務が忙しくて、訓練まで手が回らない



どのような訓練を行えば良いか分からない

施設の職員が参加できるスケジュール調整が難しい

支援ツールを使用した施設所有者(管理者)の感想

施設タイムラインを作成することで、いつ何をすべきか確認しながら訓練を実施できた

支援ツールに避難行動が具体的に書かれており、初心者に分かりやすい

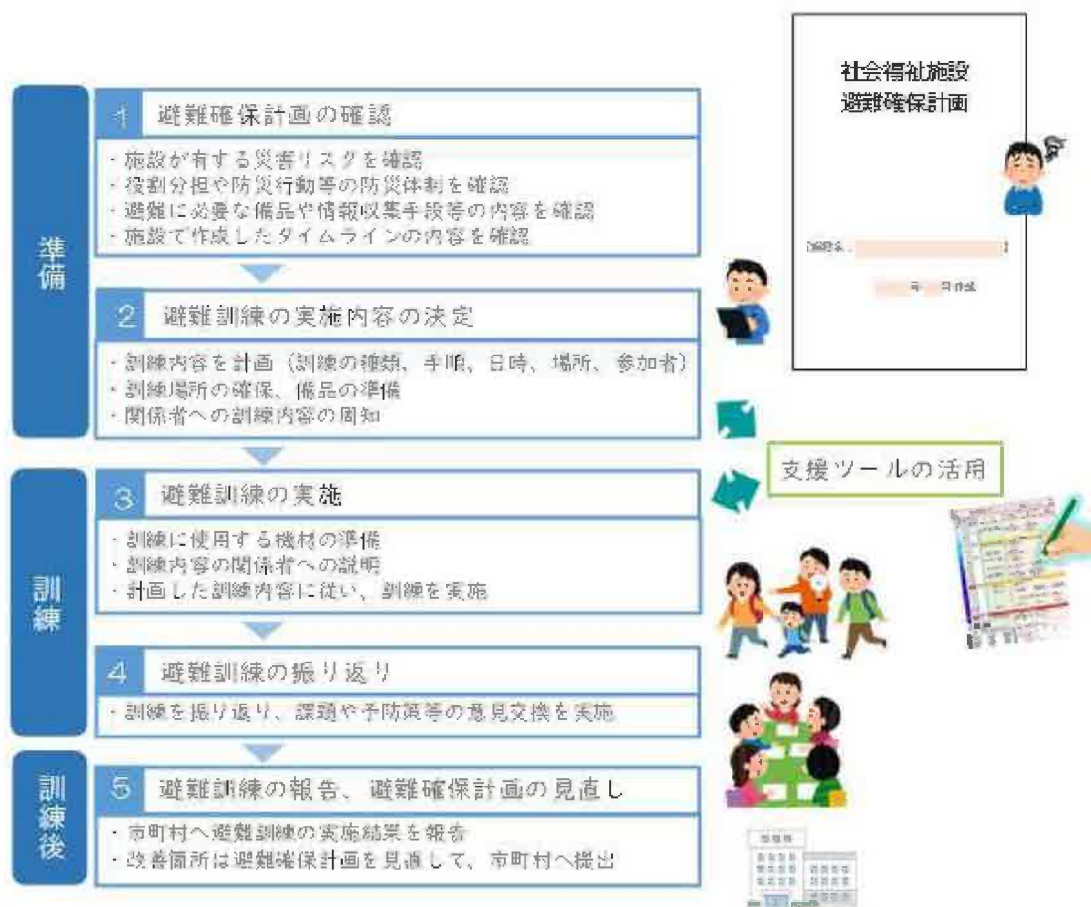
訓練を職員間で周知させる時に、大まかな流れ、絵での説明、ポイント等があり、分かりやすかった



避難訓練の支援ツール

1. 避難訓練実施の流れ

避難訓練の実施は、要配慮者利用施設で策定された「避難確保計画」を元に以下の手順で行います。支援ツールを活用することで、訓練を容易に実施することが可能です。



施設での避難訓練実施の流れ

URL : <https://www.ktr.mlit.go.jp/river/bousai/index00000029.html>



4つの支援ツールを掲載。各施設の状況に応じて活用。

施設でのタイムラインを作成していない、災害時の役割の手順が決まっていない

施設タイムラインツール



初めてで訓練の手順がわからない、どんな訓練を実施すべきかイメージできない

シナリオ簡易作成ツール



各職員の役割や分担、活動内容が理解できていない、見直しを行いたい

アクションカードツール



図上訓練を実施してみたい、どうしても実動での訓練実施が難しい

DIGツール



4つの支援ツールを掲載。各施設の状況に応じて活用。

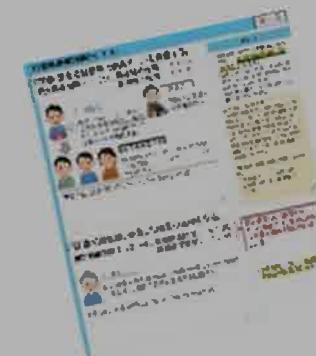
施設でのタイムラインを作成していない、災害時の役割の手順が決まっていない

施設タイムラインツール



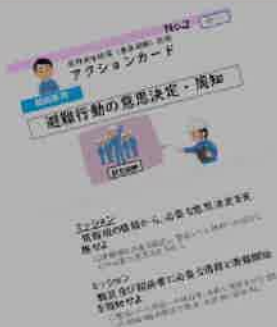
初めてで訓練の手順がわからない、どんな訓練を実施すべきかイメージできない

シナリオ簡易作成ツール



各職員の役割や分担、活動内容が理解できていない、見直しを行いたい

アクションカードツール



図上訓練を実施してみたい、どうしても実動での訓練実施が難しい

DIGツール



施設タイムラインツール

【訓練実施にあたり施設が抱えている悩み】

施設でのタイムラインを作成していない、災害時の役割の手順が決まっていない

【ツールでできること】

災害リスクに備えた施設職員の行動内容「いつ、誰が、何をするか」をわかりやすく整理する。

【使用方法】

「避難確保計画」等を参考に、災害時の主な行動や各担当者の役割分担の内容を、「施設タイムライン」に記載。

実際に作成したタイムラインを元に訓練を行う。

訓練時に確認した事項を直接書き込むことで、必要な内容を明確化していく。

「いつ」 行動するか

「誰が」 行動するか

役割分担の例

- 施設長 (施設管理責任者)
 - 【役割】 訓練準備～終了の挨拶・確認など
- 書記
 - 【役割】 訓練に必要な情報の収集と関係者への共有 など
- 避難誘導係
 - 【役割】 施設利用者の誘導や作業スペースへの準備・事後確認 など

ひと目でよくわかるね!

【何をするか】 10

4つの支援ツールを掲載。各施設の状況に応じて活用。

施設でのタイムラインを作成していない、災害時の役割の手順が決まっていない

施設タイムラインツール



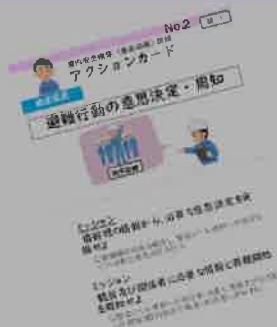
初めてで訓練の手順がわからない、どんな訓練を実施すべきかイメージできない

シナリオ簡易作成ツール



各職員の役割や分担、活動内容が理解できていない、見直しを行いたい

アクションカードツール



図上訓練を実施してみたい、どうしても実動での訓練実施が難しい

DIGツール



シナリオ簡易作成ツール

【訓練実施にあたり施設が抱えている悩み】

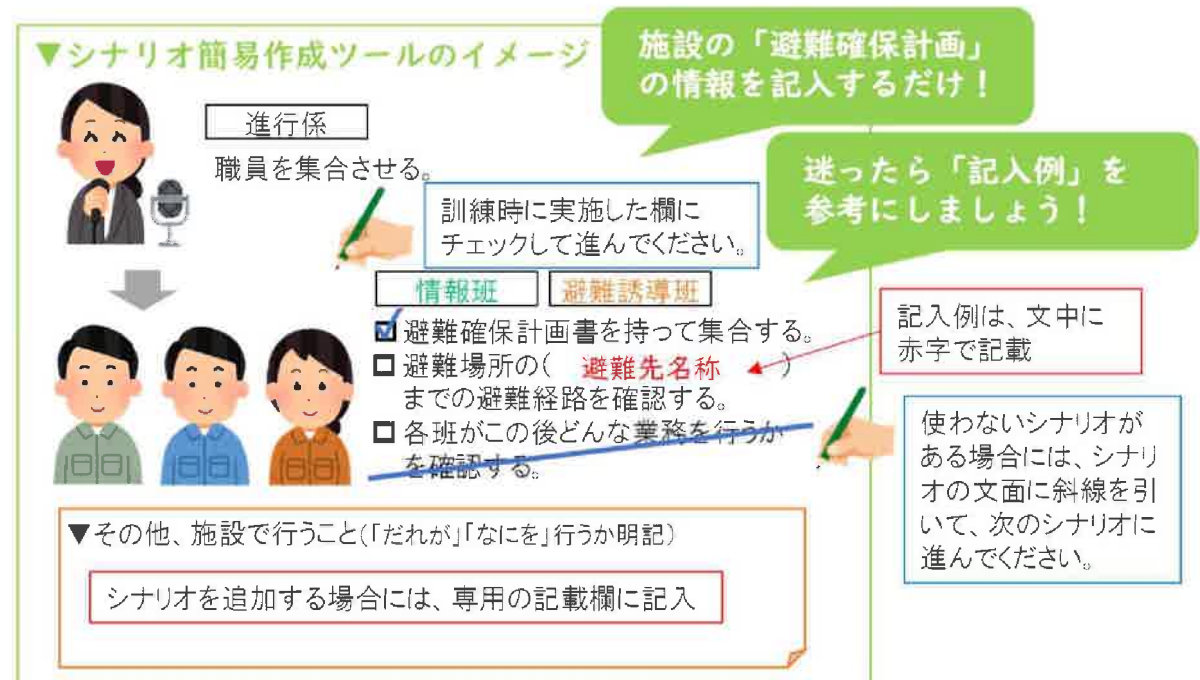
初めてで訓練の手順がわからない、どんな訓練を実施すべきかイメージできない

【ツールでできること】

避難訓練を実施する際に必要となる、訓練の進行を整理した「シナリオ」を作成。
避難行動をイメージしやすくし、訓練をスムーズに行えるようにする。

【使用方法】

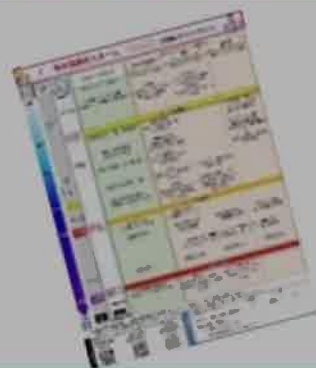
ツールの様式にある訓練内容からどの訓練を行うかを決定する。
ツールにある()部分に避難確保計画の情報を「記入例」を参考に必要な情報を記入し避難訓練シナリオを作成。
作成したシナリオに沿って訓練を行う。
訓練シナリオは5つあるため、組み合わせることも可能。



4つの支援ツールを掲載。各施設の状況に応じて活用。

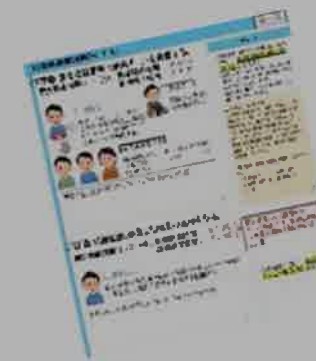
施設でのタイムラインを作成していない、災害時の役割の手順が決まっていない

施設タイムラインツール



初めてで訓練の手順がわからない、どんな訓練を実施すべきかイメージできない

シナリオ簡易作成ツール



各職員の役割や分担、活動内容が理解できていない、見直しを行いたい

アクションカードツール



図上訓練を実施してみたい、どうしても実動での訓練実施が難しい

DIGツール



アクションカードツール

【訓練実施にあたり施設が抱えている悩み】

各職員の役割や分担、活動内容が理解できていない、見直しを行いたい

【ツールでできること】

アクションカードは、災害対応を行うにあたり、想定し得る範囲の、とるべき避難行動の指標をカード化したもの。防災知識がなく、災害対応に不慣れな方も、カードに示す内容を実施することで、避難行動を行えるようにする。

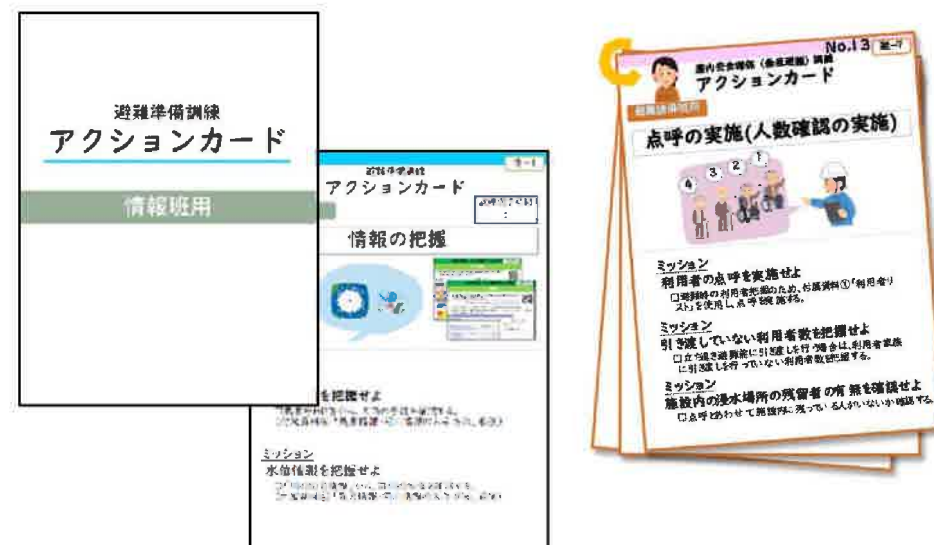
【使用方法】

訓練別にアクションカードのテンプレートがあるので、行いたい訓練を選択してカードを用意する。

避難行動を班ごとに整理されているので、班ごとに用意されたカードを配布。

カードに沿って訓練を行う。

実動訓練に用いることを想定しているが、難しい場合は図上訓練で使用することも可能。



4つの支援ツールを掲載。各施設の状況に応じて活用。

施設でのタイムラインを作成していない、災害時の役割の手順が決まっていない

施設タイムラインツール



初めてで訓練の手順がわからない、どんな訓練を実施すべきかイメージできない

シナリオ簡易作成ツール



各職員の役割や分担、活動内容が理解できていない、見直しを行いたい

アクションカードツール



図上訓練を実施してみたい、どうしても実動での訓練実施が難しい

DIGツール



DIGツール

【訓練実施にあたり施設が抱えている悩み】

図上訓練を実施してみたい、どうしても実動での訓練実施が難しい

【ツールでできること】

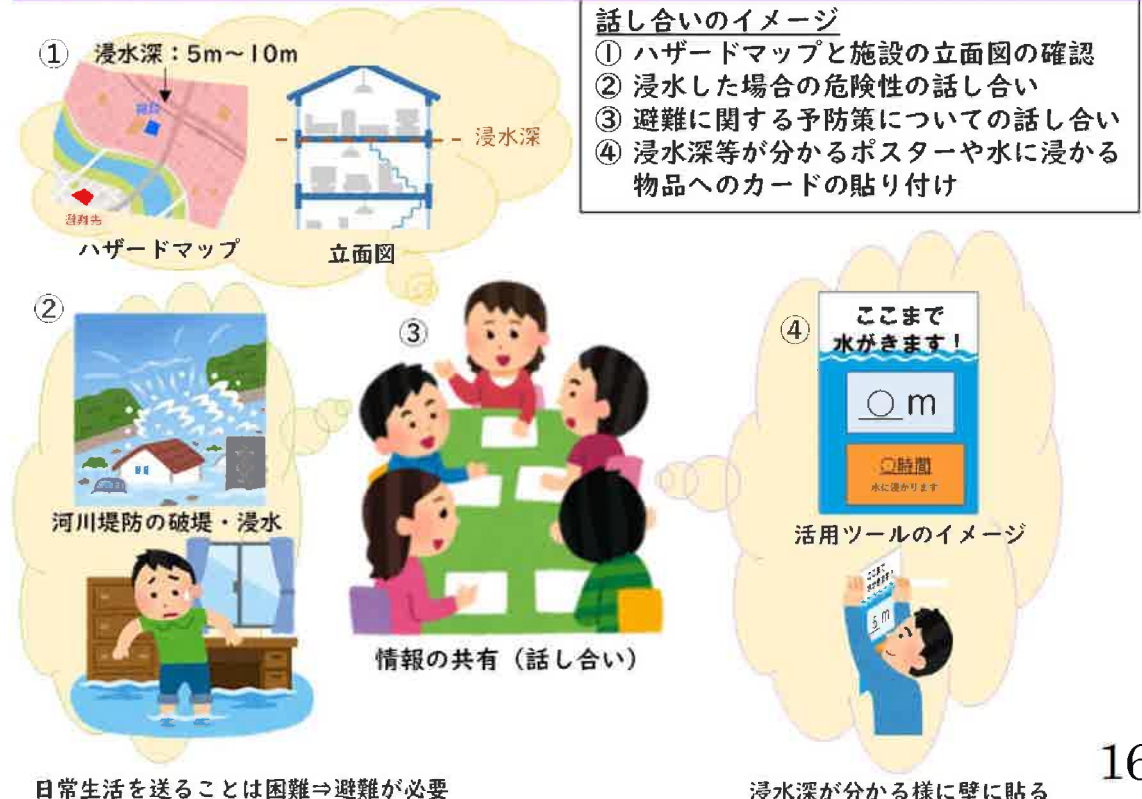
施設の災害リスクを「見える化」し、起こり得る課題や危険性について、みんなで考える訓練。実動訓練が難しいときや図上訓練を行うときに活用。

【使用方法】

ハザードマップ、施設の図面など用意し、課題に対しての行動や対策を参加者で考え、話し合い列挙していく。参加者全員が発言することで参加意識を向上させることが重要。訓練結果を施設職員に目に入るところに貼り付けるなどして、情報共有する。

※KJ法に類似

例) 施設の浸水と危険性の話し合いによる訓練



■支援ツールに関するお問い合わせ先

国土交通省 関東地方整備局 河川部 水災害対策センター

〒330-9724 埼玉県さいたま市中央区新都心2-1
さいたま新都心合同庁舎2号館

電話：048（601）3151（代表）
048（600）1482（直通）

訓練の実施に対して、施設管理者から技術的な助言※に関する相談があれば、各河川事務所で設置した災害情報普及支援室や関係市町村等と連携して、適切な対応をお願いします。

※ 関連用語の解説、各種情報サイトの見方、対象となる水位観測所の案内など